

# 「学校生活における健康管理に関する調査」中間報告

平成 25 年 12 月 16 日

学校給食における食物アレルギー対応  
に関する調査研究協力者会議資料

## 1 調査概要

- アレルギー疾患等を抱える子供たちに対する学校の対応は多岐にわたるとともに、今後、ますますの取組が求められる状況にあり、学校における教育指導の一層の充実を図る観点から、児童生徒の実態及び学校における取組の現状を把握し、今後の有効な対応方策を検討するための基礎資料を得ることを目的として行っているもの。平成 25 年度の文部科学省委託事業として、公益財団法人日本学校保健会において実施中。

## ○ 調査対象・方法

- (1) 全国の公立小学校・中学校・高等学校・中等教育学校
- (2) 全国の都道府県・市町村(指定都市及び特別区を含む。)教育委員会

## 2 調査結果の一部とりまとめ (速報値)

### ○ 調査対象児童生徒数

小学校 4,642,473 人 (14,963 校)

中学校・中等教育学校 2,401,024 (7,208 校)

高等学校 1,693,084 (2,675 校)

合計 10,153,188 (28,958 校)

(合計には、校種不明の対象数 1,416,607(4,112 校)を含む。)

### ○ アレルギー疾患のり患者(有症者)数は以下のとおり。(平成 25 年8月現在。)

なお、( )内の数字は、「調査対象児童生徒数」に対する各疾患の割合を示す。

	食物アレルギー	アナフィラキシー(※)	エピペン <sup>®</sup> 保持者(※※)
小学校	210,461(4.5%)	28,280(0.6%)	16,718(0.4%)
中学校・中等教育学校	114,404(4.8%)	10,254(0.4%)	5,092(0.2%)
高等学校	67,519(4.0%)	4,245(0.3%)	1,112(0.1%)
合計	453,962(4.5%)	49,855(0.5%)	27,312(0.3%)

※アナフィラキシーとは、アレルギー反応により、じんましんなどの皮膚症状、腹痛やおう吐などの消化器症状、ゼーゼー、呼吸困難などの呼吸器症状が、複数同時にかつ急激に出現した状態をいう。ここでいうアナフィラキシーとは、特定の物質や食品に対してアナフィラキシーを起こしたことがあるもの。以下の集計においても同様。

※※エピペン<sup>®</sup>とは、アドレナリン自己注射薬のことをいう。以下の集計においても同様。

(参考値 平成 19 年「アレルギー疾患に関する調査研究報告書」)

	食物アレルギー	アナフィラキシー
小学校	194,445(2.8%)	10,718(0.15%)
中学校・中等教育学校	88,100(2.6%)	5,023(0.15%)
高等学校	46,878(1.9%)	2,582(0.11%)
合計	329,423(2.6%)	18,323(0.14%)

調査対象児童生徒数

小学校 6,987,174 / 中学校・中等教育学校 3,349,388

高等学校 2,436,992 / 合計 12,773,554

- アレルギー疾患のり患者のうち、学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)や医師の診断書等の提出があった児童生徒は以下のとおり。

なお、( )内の数字は、「疾患のり患者数」に対する「医師の診断有り」の割合を示す。

	食物アレルギー	アナフィラキシー	エピペン <sup>®</sup> 保持者
小学校	64,248(30.5%)	11,638(41.2%)	5,335(31.9%)
中学校・中等教育学校	15,563(13.6%)	3,200(31.2%)	1,330(26.1%)
高等学校	3,405(5.0%)	1,162(27.4%)	566(50.9%)
合計	97,088(21.4%)	18,477(37.1%)	8,410(30.8%)

- 学校におけるエピペン<sup>®</sup>の使用については、以下のとおり。

ただし、平成 20 年4月から平成 25 年8月の期間の集計である。

	本人	学校職員	保護者	救急救命士	合計
小学校	50	66	79	57	252
中学校・中等教育学校	37	19	11	4	71
高等学校	24	9	2	1	36
合計	122	106	114	66	408